船舶事故等調査報告書（軽微）

１	船舶事故	計　68 件
２	船舶インシデント	計　16 件
	合　　計	84 件

平成２２年２月２６日

運 輸 安 全 委 員 会

船舶事故等調査報告書（軽微）一覧

（函館事務所）

1　漁船第五十八大勢丸衝突（防波堤）

2　漁船正寶丸漁船正盛丸衝突

3　漁船漁有浸水

4　漁船 MEKHANIK BRYZGALIN 漁船第五十一金勢丸衝突

（仙台事務所）

5　漁船新陽丸転覆

6　漁船第三十五日東丸運航不能（機関損傷）

7　旅客船ニューとびしま運航阻害

8　貨物船安芸丸漁船第五光栄丸衝突

9　漁船第二十三兼神丸乗揚

（横浜事務所）

10　漁船第二豊榮丸衝突（桟橋）

11　引船第二十一福寿丸引船列乗揚

12　貨物船 TS INCHEON 貨物船 GLORY OCEAN 衝突

13　貨物船第一敬神丸乗揚

14　漁船徳丸漁船第三徳栄丸衝突

15　貨物船第十八住吉丸運航阻害

16　液化ガスばら積船第十二いづみ丸運航阻害

17　水上オートバイオオモリ FX-C 同乗者負傷

18　貨物船 ASIAN POWER 漁船太徳丸衝突

19　漁船海青丸運航不能（機関損傷）

20　遊覧船Little George運航不能（推進器損傷）

21　貨物船 Eastern Jubilee 衝突（桟橋）

22　モーターボートアイホウ　カトウ丸沈没

23　貨物船 JIN TONG 砂利採取運搬船第五福神丸衝突

（神戸事務所）

24　砂利採取運搬船第十一住徳丸乗揚

25　貨物船 UNION ONE 引船くろしお丸引船列衝突

26　貨物船山優丸衝突（岸壁）

27　漁船光進丸漁船西漁丸衝突

28　砂利採取運搬船第八栄進丸乗揚

29　貨物船香奈丸乗揚

30　貨物船 GAIA 漁船大伸丸衝突

31　貨物船第十一丸住丸乗揚

32　水上オートバイドラ遊泳者負傷

33　モーターボートサガン　７衝突（養殖筏）

34　引船増銀丸被引バージＳ－１６０２乗揚

35　水上オートバイジェット運航不能（機関損傷）

36　油タンカー第三幸徳丸乗揚

37　引船せと丸二号乗揚

38　水先船べいぱいろっと７衝突（岸壁）

39　砂利採取運搬船第拾八明徳丸乗揚

40　旅客船フェリーせっつ漁船安栄丸漁網損傷

41　砂利採取運搬船第十八榮福丸乗揚

※下線付き番号は、インシデント

42　砂利採取運搬船第参拾参宝来丸乗揚
43　砂利採取運搬船第二十六中野丸乗揚
44　漁船友明丸快遊船信英丸衝突
45　押船八幡丸被押台船JFEN5 座洲
46　ケミカルタンカーMARINE GALAXY運航不能（機関損傷）
47　貨物船高砂丸乗揚
48　砂利採取運搬船第二十八中野丸乗揚
49　砂利採取運搬船第参拾参宝来丸乗揚
50　旅客船OCEAN PRINCE運航不能（舵故障）
51　貨物船第三十八開神丸漁船信漁丸衝突
52　モーターボート remifa 乗揚

（広島事務所）

53　油送船第十二春日丸漁船白龍丸衝突
54　ヨットイルカ乗揚
55　漁船第八寿海丸漁船富丸衝突
56　貨物船英省丸乗揚
57　モーターボート ANEDEL.WEISS 乗揚
58　貨物船第三大共丸乗揚
59　モーターボート藤丸乗揚
60　モーターボートごっどういっと漁船大西丸衝突
61　貨物船第一甲陽丸座洲
62　練習船えひめ丸漁船盛栄丸衝突
63　交通船 YUZI 号衝突（防波堤）

（門司事務所）

64　貨物船久美丸運航阻害
65　漁船第二十一裕和丸運航不能（機関損傷）
66　貨物フェリーフェリーゆうき運航阻害
67　貨物船冨士福丸衝突（消波ブロック）
68　プレジャーボートインターセプター被引浮体水上オートバイ流星衝突
69　遊漁船第二あき丸衝突（防波堤）
70　プレジャーモーターボート亜希Ⅱウェイクボーダー負傷
71　漁船大成丸モーターボート海晋衝突
72　漁船第五日新丸漁船拓丸衝突
73　漁船久美丸乗揚

（長崎事務所）

74　モーターボートみゆき丸漁船眞幸丸被引漁船明光丸衝突
75　交通船New松島運航不能（機関損傷）
76　ヨット義丸乗揚
77　水上オートバイ MK 水上オートバイ Michael 衝突
78　漁船８８海龍乗揚
79　砂利採取運搬船正輝丸乗揚
80　油送船豊顕丸座洲

（那覇事務所）

81　貨物船第三十一大昭丸乗揚
82　貨物船明彦丸乗揚
83　ダイビング船シーザ乗組員負傷
84　貨物船明彦丸衝突（岸壁）

※下線付き番号は、インシデント

船舶事故等調査報告書

平成２２年１月２８日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	２００９門第７２号	
事故等種類	運航不能（機関損傷）	
発生日時	平成２１年３月５日　０４時１０分ごろ	
発生場所	長崎県対馬市美津島町黒島所在の対馬黒島灯台から真方位１１３°１２海里付近（概位　北緯３４°１４.５′東経１２９°３８.０′）	
事故等調査の経過	平成２１年５月７日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船　第二十一裕和（ゆうわ）丸、１６トン ＮＳ２－１７０５３（漁船登録番号）、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	主機のシリンダライナ及びピストン並びに過給機タービン軸等が焼損	
事故等の経過	本船は、船長が１人で乗り組み、操業を終え、美津島町黒島東方沖を帰航中、平成２１年３月５日０４時１０分ごろ、油の焦げるような臭いがしたことから、船長が操舵室から機関室出入り口方向を確認すると、同出入り口から白い煙が出ていた。 船長は、機関室に赴き点検したところ、主機の潤滑油補給口蓋（以下「潤滑油補給口蓋」という。）が外れ、潤滑油が噴き出し、主機が過熱していたため、主機を停止し、僚船にえい航を依頼した。 本船は、０６時３０分ごろ僚船にえい航されて帰港したのち、本件整備業者が点検した結果、主機のシリンダライナ及びピストン等が焼損していることが判明し、のち修理された。	
気象・海象	気象：天気　曇り、風向　東、風速　約５m/s、視界　良好 海象：波高　約１.５m	
その他の事項	主機は、１年前ほどから、排気色が濃白色で、オイルミスト管から同ミストが多量に放出していた。 主機の潤滑油は、機関取扱説明書に記載されている交換時期（主機運転時間約５００時間毎）よりも短い、約１月（主機運転時間約２８０時間）毎に交換されており、汚損が激しかった。 船長は、潤滑油給油口蓋を固く閉めすぎると開けるのが難しくなるため、日頃から同蓋を緩めに閉めていた。 船長は、出港前に潤滑油給油口蓋の締まり具合を点検していなかった。	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	主機等は、主機のクランク室内圧力がブローバイで高まっている下、潤滑油給油口蓋が運転時の振動によって緩んで外れ、潤滑油が漏洩して油量不足となったため、焼損したものと考えられる。

		潤滑油給油口蓋は、船長が、同蓋を緩めに閉め、出港前に同蓋の締まり具合を点検していなかったため、運転時の振動により緩んで外れたものと考えられる。 船長が、濃白色の排気色や多量のオイルミストの放出を認めた際、主機を開放して点検しておれば、また、出港前に点検するなどして、潤滑油給油口蓋を適切に閉めておれば、本インシデントは防げたものと考えられる。
原因	本インシデントは、本船が対馬東方沖を航行中、主機のクランク室内圧力がブローバイで高まっている下、潤滑油給油口蓋が運転時の振動によって緩んで外れ、潤滑油が漏洩して油量不足となったため、主機ピストン等が焼損したことにより発生したものと考えられる。	